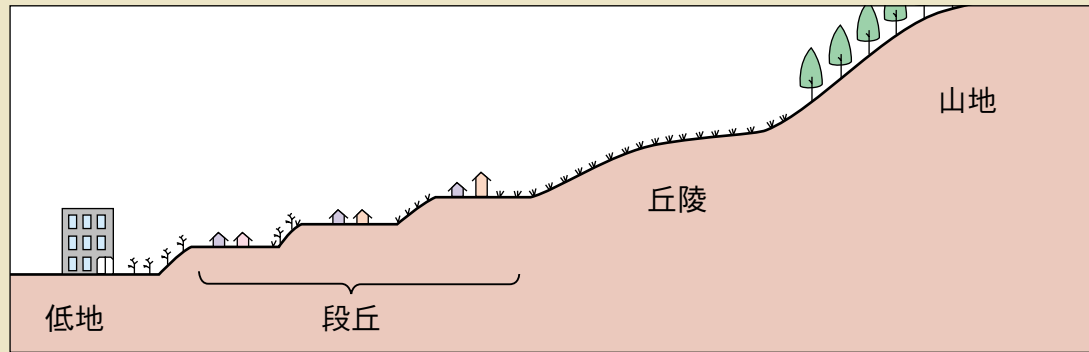


(2) 段丘のかたち



常盤川中流にできた段丘



向能代



柏子所（段丘面がおちこんだ所）

①段丘地形のでき方

能代平野は、階段のように、高さのちがう平らな土地が集まってできています。

この原因は、地面が水面の下にもぐったり、顔を出したり、また、顔を出したまま水面の変化がなかったりということくり返したからなのです。

土地が水の中に入ると、ねんどや土砂、小石などが水の底に平らにたまりまます。これが水面から顔を出すとそこに平らな土地（段丘面）が出現します。水面の変化が少ないと、岸が川や海でけずられて、がけ（段丘がい）ができます。

②力を受けて変形した段丘地形

段丘面はふつうは平らになっているのですが、能代平野に見られる段丘面には平らになっていないところがあります。

向能代には、平らになっているはずの段丘面がやわらかに曲がっているところがあります（写真）。また、柏子所には、段丘面が落ちこんだところがあります（イラスト）。

(3) 能代砂丘

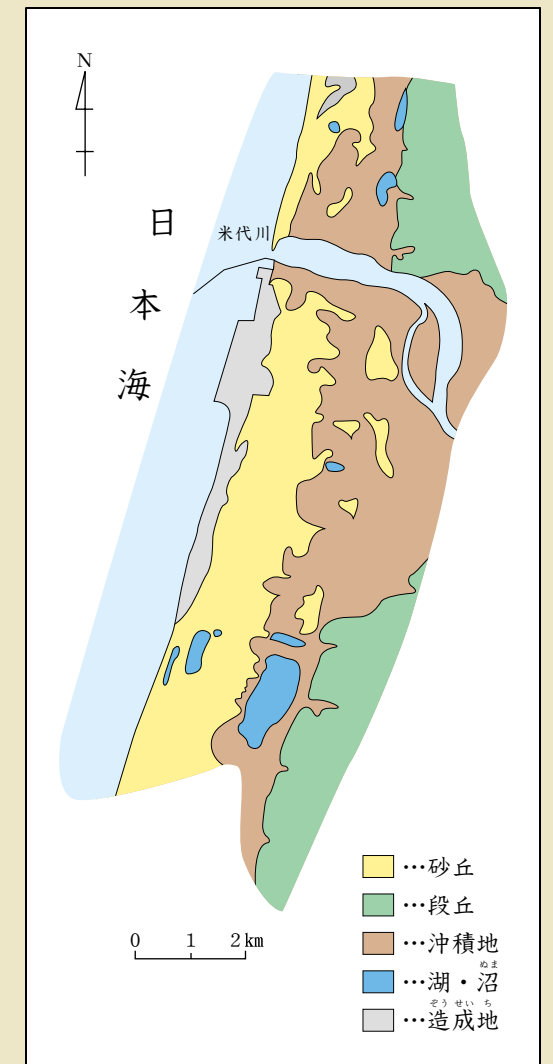
日本海に面した能代平野は、海ぞいの部分はほとんど砂地になっています。八森方面に進むと、海岸が岩にかわるので、そのちがいがはっきりわかります。

米代川は上流から砂や小石を海に運んできます。それが、海岸に打ち上げられ、風によって砂だけが飛ばされて陸地に積もったものが砂丘です。

下の写真は河口近くのものですが、能代公園を頂点とした、ゆるやかな丘になっているのがわかります。川や海、そして風で能代砂丘は少しずつ形づくられてきたのです。

砂丘地は主に砂防林となっています。昔の人々が砂が飛んでくるのをふせぐために、苦心して植えたものです。また、今では砂丘の一部をネギやメロンなどの畑やナシなどの果樹園としても利用しています。

能代の人々は、この何千年もかかってつくりあげられてきた能代砂丘とともに長い間歩んできました。このことをしっかりと理解しましょう。



能代砂丘の分布



能代砂丘の形（米代川河口近くから、対岸をながめた地形）